

1 題材名 日本伝統音楽に親しもう

2 題材の目標

- (1) 長唄の特徴に関心を持ち、主体的に長唄を唄ったり鑑賞したりする学習に取り組む。
- (2) 音色、言葉と節回しとの関わり、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、どのように唄うかについて思いや意図をもつ。
- (3) 長唄にふさわしい声、言葉の発音、身体の使い方などを追求して唄う。
- (4) 長唄の特徴を物語や演出などと関連付けて理解して歌舞伎音楽を鑑賞する。

3 主な〔共通事項〕 音色、旋律、強弱

4 題材設定の意図

本題材では、A表現(1)歌唱の事項イ「曲種に応じた発声や言葉の特性を理解して、それらを生かして歌うこと。」とB鑑賞の事項イ「音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、鑑賞すること。」が主な学習・指導内容である。教材として「勸進帳」を取り上げる。歌舞伎や長唄の特徴に関心を持ち、唄ったり、鑑賞したりする活動を通して、長唄のよさを味わい、理解を深めることが本題材のねらいである。

生徒の実態を見てみると、共通教材として扱われている日本歌曲に対しては愛着をもって歌唱する姿が見られる。しかし、第1学年で学習した民謡に対する意識調査では、*人学級のおよそ半数にあたる*人は、民謡がどのような音楽なのか説明できないという結果になった。この理由としては、拍を感じさせない追分様式に慣れてないことや言葉の難しさが考えられる。

そこで、本題材の指導に当たっては、まず、鑑賞の学習において、歌舞伎を総合芸術として取り上げ、演出や衣装、様々な視点によって構成されているなど、歌舞伎の特徴を捉えられるようにする。次に、物語と関連付けながら長唄に注目させることで、長唄への関心を高められるようにする。そして、言葉の難しさへの抵抗を少なくし、歌唱の学習につなげていきたい。歌唱の学習においては、ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくりを進める。具体的には、タブレットPCや電子黒板といったICT機器の活用を積極的に行い、授業の視覚化を図る。例えば、タブレットPCでは、小グループに1台ずつ配付し、各自のタイミングで自由に繰り返し長唄の映像を鑑賞し、発声や表情、身体の使い方に気付けるようにする。

歌唱や鑑賞の学習を通して、歌舞伎音楽のよさが「分かる」ことが「楽しさ」につながり、「音楽文化の理解」を図ることになると考える。

5 教材

「勸進帳」 三世並木五瓶 作 四世杵屋六三郎 作曲 (中学生の音楽2・3上 教育芸術社)

6 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
①長唄の特徴と物語や演出などとの関わりに関心を持ち、鑑賞したり唄ったりする学習に主体的に取り組もうとしている。	①長唄の音色，旋律，強弱を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，長唄にふさわしい発声や言葉の特性を理解して，それらを生かした音楽表現を工夫し，どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	①長唄にふさわしい発声や，言葉の特性を生かした音楽表現をするために必要な発声や言葉の発音，身体を使い方などの技能を身に付けて唄っている。	①長唄の音色，旋律，強弱を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，長唄の特徴を物語や演出などと関連づけて理解して，歌舞伎音楽のよさや美しさを味わって聴いている。

7 学習活動と評価の計画（4時間扱い）

次	ねらい	主な学習活動	〔共通事項〕	題材の評価規準
第1次 (1)	○歌舞伎の特徴をつかみ，歌舞伎における長唄の役割を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ㊦「勸進帳」 ・歌舞伎の歴史を知る。 ・歌舞伎を構成する長唄・舞踊・演技の特徴を理解する。 ・「勸進帳」のあらすじを鑑賞する。 	音色 旋律 強弱	アー①
第2次 (3) 本時は 第1時	○長唄の特徴をつかみ，音楽表現を工夫し，思いや意図をもって長唄を歌唱する。	<ul style="list-style-type: none"> ㊦「勸進帳」 ・長唄の唄方に注目し，長唄にふさわしい発声，言葉の発音，身体を使い方をつかむ。 ・音色，言葉の発音，旋律，強弱を知覚し，詞章の内容を踏まえて，どのように歌いたいか思いや意図をもって歌唱する。 		アー① イー① イー① ウー①
	○長唄への理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ㊦「勸進帳」 ・歌舞伎「勸進帳」の鑑賞を通して，長唄のよさをまとめる。 		エー①

8 本時の学習（第2次，第1時）

(1) ねらい

詞章部分を繰り返し鑑賞したり，唄ったりすることを通して，長唄の音色，言葉の発音，身体を使い方，旋律，強弱などの特徴を捉える。

(2) 準備・資料

ワークシート，長唄の映像，タブレットPC，電子黒板

(3) 学習の展開

学習内容と主な学習活動	教師の働きかけ (◆評価規準)
<p>1 歌舞伎の復習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長唄について 唄方, 三味線方, 囃子方によって演奏される。 ・舞や演技について 六法や見得といった方法がある。 <p>2 学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>長唄の特徴をとらえて, 唄方に挑戦しよう。</p> </div> <p>3 「恐れつびょうぞ 見えにける」の唄い方を考える。</p> <p>(1) 詞章部分の場面をつかむ。</p> <p>(2) 唄方の姿勢・表情・声の感じをつかむ。</p> <p>(3) 唄い方の特徴をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一文字を長く伸ばすときは, 同時に音の高さの変化もあるな。 ・短い言葉の中に強弱の変化が多いな。 ・一語一語, 声を張っているな。 </div> <p>(4) 唄う練習をする</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・細かな音の高さの変化を真似するのは難しいな。 ・太く力強い声で歌うのは難しいな。 ・言葉(母音)をはっきり発音しよう。 </div> <p>4 「恐れつびょうぞ 見えにける」を唄う。</p> <p>(1) 全員で映像に合わせて唄う。</p> <p>(2) 詞章部分の鑑賞をして気づいたことや唄ってみて感じたことを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動を円滑にスタートさせるために, 復習はポイントを絞って, プレゼンテーションソフトを活用して確認していく。 <ul style="list-style-type: none"> ・本時で取り上げる詞章部分について, 「勸進帳」のあらすじから確認し, 緊迫感のある場面であることを捉えられるようにする。 ・長唄の映像から, 唄方の姿勢・表情・声の感じは生徒全員が確実に押さえて欲しい内容であるため, ワークシートも活用して, 全員で共通に内容理解が図れるようにする。 ・タブレットPCは簡単に操作できるようにしておくとともに, 電子黒板を用いて操作方法の確認を行うことで, 繰り返し鑑賞できるようにする。 ・ワークシートには, 音の高さの変化や伸ばす言葉など, 聴き取ったことを自由に記入するよう助言する。 ・歌唱活動が円滑に進められるようにするために, グループ内で聴き取った特徴を共有するように言葉掛けをする。 ・机間指導をグループごとに行い, 歌唱活動の状況を把握し, 個人やグループの状況に応じて, 教師と一緒に唄ったり, 長唄の特徴を確認したりするなどの支援をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動のまとめとして, 映像に合わせて全体で唄う活動を位置付け, 長唄の唄い方について全体で共有することで, 次時の学習につなげられるようにする。

<p>5 本時のまとめを行い、次時の活動内容を知る。</p>	<p>◆ア-① (ワークシート, 観察) ◆イ-① (ワークシート, 観察)</p>
--------------------------------	--